

CONTENTS

目次

ii	はじめに
vi	日本語で「調べる・考える・伝える」活動を行うために — 本書で扱われる科学の問い —
x	本書の特長と内容
xiv	付録ワークシートを用いた本書の活用手法 — アクティブラーニング型・活動型授業実践での使用方法 —
xviii	オンライン授業・独学での活用法
xx	本書のナビゲーター

Unit 4 ことばの本質

人間という生物の最も大きな特徴の一つは、言語を操る能力にあると言われます。このユニットでは、言葉に関する科学的研究を二つ紹介します。「日本語は非論理的な言語だ」という声の一部に根強くありますが、それは本当なのでしょうか。失語症の研究から見てきた、言語の「二つの機能」とは何でしょうか。一般にはあまり知られていない研究に触れながら、言葉の本質について考えましょう。

Lesson 9 日本語は曖昧で非論理的な言語なのか？

アクティビティ	言語が認知バイアスに与える影響に関する実験	4
本文	「第二言語」は人の思考を論理的にする	8
文法コラム	「のだ」は何のために使われるのか？	40

Lesson 10 「失語症」の症例から我々は人や社会について何を学べるのか？

アクティビティ	失語症のパターンに関する調査	50
本文	言語の二つの機能と日本社会	54
文法コラム	「ても」「のに」「けれども」「が」は何が違う？	84

Unit 5 生命と身体

このユニットでは、生命と身体に関わる研究を取り上げます。1990年代以降の日本で増加した自死の問題が、コロナ禍の中で再び大きな問題となりました。また、スマートフォンやインターネットがこれだけ普及しても、人と人との「対面での会話」や「手書き」での伝達は欠かせません。私たちの生命と身体を守り、そして豊かに生きるために、科学的知見を取り入れながら理解を深めましょう。

Lesson 11 社会の「絆」は人々の心を救うことができるのか？

アクティビティ	人々の命を守るための調査報告書	92
本文	命を守る社会的統合	96
文法コラム	「コップが割れ{ている・ていた}」はそれぞれいつ割れたのか？	128

Lesson 12 紙の本、手書きのノート、対面での会話は時代遅れなのか？

アクティビティ	手書きとパソコンのどちらが記憶に残りやすいかを検証した実験	138
本文	ICTの普及がもたらすもの	142
文法コラム	「お酒を飲{んだら・むなら}薬を飲んではいけない」は、いつ薬を飲めばよい？	170

Unit 6 心が持つバイアス

人間の心というものは、様々な点で、合理的とはいえない「歪み」や「偏り」を持つことが知られています。このユニットでは、「頭のよさが思考を硬直させることがある」「ある傾向を持つ人々が、社会現象を「陰謀論」で説明しがちである」「人は「未来の変化」を常に過小に見積もっている」といった事実を紹介しながら、心の多様な性質について考察していきます。

Lesson 13 頭脳明晰な人々も大きな失敗をするのはなぜか？

アクティビティ	IQと判断力との関係に関する実験	176
本文	「頭がいい人」のほうが間違えやすいこともある	180
文法コラム	「この田中さん」「その田中さん」は置き換えられるのか？	210

Lesson 14 人はなぜ「陰謀論」を信じるのか？

アクティビティ	陰謀論を信じやすい人の特徴に関する調査	220
本文	「不安」の高まりが生む根拠のない陰謀論	224
文法コラム	「先生は毎週レポートを書かせる」は正しい？	258

Lesson 15 人は「未来の自分」をどこまで想像できるのか？

アクティビティ	人が「自分の価値観の変化」をどう捉えているかに関する調査	264
本文	将来の変化を過小評価する「歴史の終わり」幻想	268
文法コラム	「水が飲みたい」は例外か？	298

本文翻訳 (英語・中国語・韓国語・ベトナム語)	301
参考文献	380
索引 (語彙索引／文化・社会・科学キーワード索引／文法索引)	385
おわりに	400
著者紹介	402
【別冊】解答	